

編集後記

分析化学討論会、Separation Sciences 99、ICFIA 99(Prague, Czech)と学会が続く忙しい中、原稿をお寄せ頂きありがとうございました。お陰様で予定通りに印刷に廻すことができました。

Journal of FIA の編集委員長を長らく務めて頂きました河寫拓治先生が本年 3 月 31 日付で筑波大学をご定年になられました。先生は本誌の編集と発展に多大な努力をされ、また、JAFIA の牽引者として活躍されました。先生のご貢献に一同感謝しております。

6 月 9 日に東京理科大学で開催されました編集委員会で成澤芳男先生(元立教大学 教授)と河寫先生には引き続き編集委員会に留まって頂きご協力頂くことになりました。

編集委員会で話題となりましたが、本号に執筆頂きました木羽先生の巻頭言に μ FIA のタイトルがつけられており、また投稿論文にも同じく μ FIA が使われております。 μ のもつ微小、微量が意図されたものですが、内容的にはやや異なったイメージがあるのではないかとの意見が出されました。皆様のご意見、感想をお寄せ頂ければ幸いです。FIA の特徴のひとつにマイクロ検出器としての機能が挙げられます。マイクロチップを用いる分析法、マイクロ流れ系を利用する検出法もマイクロ化を目指す分析法で、いずれの検出器も今後の発展が期待されており、環境を守っていく“優しい”分析法として注目されることでしょう。

2 段組みの試みを Vol.15 No.2 より始めましたが、論文誌としての体裁はいかがでしょうか。ご意見をお聞かせください。

次号への皆さんの奮っての投稿をお待ちしております。

JAFIA 編集委員長

酒井 忠雄